

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
所在地	鹿児島県 垂水市 錦江町1-240 (電話) 0994-32-6166
自己評価作成日	平成29年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

錦江湾に面した場所にあり、桜島が良く見えます。
ホーム内は手作りのものを多く取り入れ、家庭的な雰囲気づくりを心がけています。庭には畑も作り、季節の野菜など収穫し食卓に出しています。季節ごとの行事も多く取り入れています。
スタッフの能力を引き出せるように研修にもとりこんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは市の中心地に近い海辺の閑静な地区に同法人の小規模多機能ホーム、グループホームと共に設置されており、職員研修や防災訓練、運営推進会議等は一体的に行って運営やサービスの向上に務めている。開設時より地域との関わりを大切にしており、日常の散歩や買い物時の挨拶、友人知人の来訪はもとより、地域の清掃への参加や幼稚園児との交流、各種研修や施設見学、ボランティアを受け入れなど円滑な交流が行われている。

○管理者及び職員は、ホームの理念や方針に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら常に敬愛の気持ちで寄り添い、その人らしい平穏な生活が過ごせるよう日々取り組んでいる。外出や入浴、レクリエーション等のケアに対しては無理強いしないで、方法や時間、スタッフの変更など工夫して、利用者の意欲を待つ支援し、食事についても利用者の嗜好や状態に配慮して、おやつを含め殆んどを手作りしている。利用者及び家族の想いや要望等に対しても全職員で協議し、個別のサービスを取り入れながらサービスの向上に務めており、利用者及び家族との深い信頼関係が築かれている。

○管理者及び職員は、相互の協力及び信頼関係により、自由に意見を述べ合ったり協議できる体制が築かれている。日々の業務については全職員が各自の改善目標を「目標管理シート」に明示し、定期的に評価して改善を図っている。業務改善に対しては、職員全体で話し合っって積極的に取り組んでおり、独自の「アセスメント表」の作成や、ケアの状況を適切に把握する「状態一覧表」等、意欲的な取り組みが見られる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所が開設時に職員全員で作った理念である。地域密着型サービスに位置づけられた時点で再度話あった。会議の時などに理念の再確認を行い、意志の統一を図っている。	地域密着型サービス事業所としての意義を踏まえた理念を職員全員でつくり、利用者が地域の中でその人らしく、穏やかに暮らせるように取り組んでいる。理念は事務所に掲示し、ケア会議やユニット会議での研修の実施や日常的にケアの振り返り、意見交換で共通の認識を図り、利用者の尊厳や気持ちを大切にケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地と離れているので地域との連携は難しい部分もある。地域振興会の会員になっているので地域の清掃活動など参加している。見学なども時間を決めずに常時受け入れている。	地域振興会に加入して地域の催し物などの案内を頂き、清掃活動等に積極的に参加している。ホーム周辺の散歩や買い物時に隣接の小規模多機能ホームの職員や利用者、地域の人々と挨拶や会話を交わしている。ボランティア（舞踊等）の受け入れや幼稚園児との触れ合い、友人知人の来訪、魚や農産物を頂くなど、日常的に地域と交流しており、利用者の楽しみになっている。初任者研修や、実務者研修の実施も受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	相談は随時いろいろな場所で行っている。行政からの研修の依頼があるときは受け入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>参加者から意見をもらい、それを実践に生かすように努力している。</p>	<p>会議は市職員・民生委員・地域包括支援センター職員、母体病院の職員・家族等が参加して、年6回、うち3回は隣接のグループホーム、小規模多機能ホームと合同で開催している。ホーム及び利用者の現況や運営、問題点への取り組み、ヒヤリハット事例等の報告がなされ、家族からの要望や行政職員による制度説明、地域住民から地域の高齢者の情報など活発に意見が出されており、それらをケアや業務の改善に活かしている。ホームの運営や利用者の状況を理解してもらうために、ホームの行事に合わせて会議を開催するなど工夫しており、委員からの意見を参考にサービスの向上に務めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>色々な機会をとらえて話をするようにしている。相談事項や質問などにきちんと対応してもらっている。</p>	<p>市の担当者には、日常的に訪問や電話で介護保険や各種制度の手続き、ケアや施設運営に関する相談や意見交換を密に行い、助言指導を頂いてサービスの向上に務めている。運営推進会議に毎回出席して貰うと共に、市主催の会議や「地域リハビリテーション活動支援」等の研修に積極的に参加して、行政職員や他施設の職員と情報交換を行う等、協力関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内の身体拘束廃止委員会に参加し、日常生活の中でどのような事が身体拘束になるのかを具体的に話し合っている。</p>	<p>言葉による行動制限や身体拘束、高齢者の権利擁護・虐待防止に関する研修を、法人全体及びホーム内で実施して、職員の理解を深め拘束のないケアの実践に取り組んでいる。「身体拘束廃止に向けてのマニュアル」を整備し、ケア会議やユニット会議、日々のケアの中で振り返りや意見交換を実施しており、昼間は居室や玄関等の施錠は行わず、職員は連携して利用者の見守りや声かけ、寄り添いに努めて利用者の安全の確保するなど、拘束のない自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会で毎年虐待防止の勉強会を行っている。 ホーム内では特に心理的な虐待（言葉による暴力）が行われていないか職員同士でも注意しあうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全ての職員が内容をきちんと理解できるように、勉強会をしている。法人としても、行政から講師を呼んで勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に時間をかけて説明している。特に入居ごに起こるリスクの問題やターミナルケアの話は必ず行っている。 家族の思いも十分聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議で意見を出してもらっている。 家族がいつでも誰でも相談できるような雰囲気づくりに努め、出た意見は会議で話し合い全員で共有している。	利用者の思いや意見は日常会話や表情、行動の見守りなどで理解し、家族からは日常の来訪時や運営推進会議、イベントや家族会での対話で把握に努めている。出された意見等は申し送りや「介護記録」で情報の共有を図り、申し送りやケア会議、ユニット会議で話し合っ改善に取り組んでおり、家族にも電話や来訪時の面談の際に、対応状況を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム全体の会議やユニット毎のかいぎで職員に意見を聞いている。個別には2～3ヶ月に1回話をするようにしている。	管理者は日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを密に図っている。法人の全職員が「目標管理シート」に各自の改善目標を掲げ、半年ごとに評価を実施し、管理者は年5回個別面談を行って職員の意見や提案を聞き取り、対応を話し合っ業務改善やサービス向上につなげている。勤務シフトの作成には可能な限り職員の希望を反映させ、職員の資格取得にもバックアップするなど働きやすい職場づくりに努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者はよくホームを訪れ入居者の健康状態や職員の健康状態にも気にかけている。 職員がやりがいを持って働けるように資格取得も積極てきに行っている。現在、法人で初任者研修と実務者研修を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や資格・経験年数を考慮して年間の研修計画を立てている。研修報告は会議の中で報告するとともに報告書も提出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前は交流があったが最近は少なくなっている。研修会などであった時に情報交換等を行っている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族と事前に話し合い、本人の様子や今までの生活の様子・思い・悩み等を聞き取る。本人ともよく話をし信頼関係づくりに努める。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には話を聞く事を心がけている。その中で家族の思いや悩みと本人の思いが違う場合もあるのでそれぞれに対応する。いつでも気軽に話しかけられるような雰囲気作りを心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時に困っている事や不安に思っている事にはすぐに対応し、困難な場合は職員間で話し合い解決方法を導き出し家族にも説明し行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する側される側という意識をなるべくなくし、ホーム内に足を踏み入れたら自分の家自分の家族だという意識を持ち、日々の関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には来られた時には必ず方向を行っている。遠方の家族は便りなどで知らせている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>職員と一緒に自分の家を見に行ったり、近くまでドライブにいたりしている。知り合いに会うとよく声をかけて下さる。</p>	<p>本人や家族、関係者から利用者の生活歴、病歴、家庭環境、地域交流、趣味等を聞き取り、工夫した独自のアセスメント表に整理して情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って墓参りや買い物、美容室、一時帰宅、外食等、家族と協力して馴染みの人や場との関係が途切れないうに支援している。遠方の家族には毎月発行の「ひまわり便り」で利用者の状況を伝え、電話、手紙の取り次ぎも支援して関係性の継続に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の変化を見逃さないように気をつけている。また、関係が悪化する前に職員が間にはいり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は定期的に面会に行き状態を把握するようにしている。特に病院のMSWとは連絡を取り合っている。退居された家族からも相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で把握し職員間でも共通理解ができるようにしている。意思疎通が困難な方には家族から情報をもらったり、アセスメントシートを活用している。	本人や家族との対話で思いや希望を把握し、また会話が困難な利用者からは、表情や仕草等のサインで理解に努め、その人にとって最善のケアになるよう取り組んでいる。ぬり絵や読書、将棋、オセロ等の趣味や炊事、洗濯物をたたむ等の得意な作業への取り組みについても、体調に配慮しながら希望に添って個別の支援を行っており、利用者の励みになるよう機会をとらえて評価の言葉かけに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り以外でも、本人と話をしているといろいろな話が出てくるので、記録に残し申し送りを行い情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で職員の気づきや、新しく出来たこと、出来なくなった事に注目し小さな変化も気をつけている。また、個々の生活リズムも大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には意見を聞くようにしている。アセスメントやモニタリングは全職員で行い、ケアプランに反映させている。	本人・家族の意向や主治医等関係者からの意見を参考に、課題の分析やケアの方法等を協議して、リハビリを含む、きめ細かな解りやすい内容の介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、ユニット会議で利用者にとって最善のプランになるよう協議して改善を図っており、支援の実施状況は「経過記録」「状態一覧表」等で詳細に情報を共有している。利用者の状況の変化に対しても随時モニタリングを行い現状に沿ったプランに変更して、利用者が安心して改善が図れる支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、ケアプランに対する実績記録、排尿・排便・睡眠時間チェック、食事・水分量チェックレクレーションの記録等を行っている。計画の見直しの時には活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外泊・外出にも臨機応変に対応している。緊急で病院受診がひつような時にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や消防関係近隣の事業所とは連携がとれている。踊りのサークルや近くの幼稚園も来てくれるようになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の希望を聞いている。医療法人なのでそれらのかかりつけ医が多いが、それ以外でも家族が病院に付き添って行かれたり、往診にいられたりしている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。定期的な往診や家族対応による専門医の受診、緊急時の24時間連携体制も築かれ、また法人母体の医師は頻繁に来園して利用者の健康状態を気遣ってくれており、利用者の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は、「往診・受診記録」「介護記録」で情報を共有し、家族にも電話等で報告するなど連携して支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も見逃さないように気をつけ、そのつど看護師に報告している。利用者の状態もよく理解しているのですぐに対応が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には必ず情報提供を行っている。早い段階から病院のMSWと連携を取り、早期退院に向けてアプローチを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化してきたときには家族、医師を交えターミナルケア指針に添って話をしている。職員ともよく話あ取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、入所時に「ターミナルケア指針」でホームの対応等を説明し理解を得ている。利用者が重度化した時点で主治医、家族と十分なカンファレンスを行い、家族の希望に添って可能な限りの支援の体制を築いて対応しており、これまで1件の看取りを実施している。看取り実施後は全職員で振り返りと事例発表を行い改善に繋げている。重度化や看取りの対応に伴う職員の不安感の軽減や介護技術について管理者はフォロー・サポートする体制を築いている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防による心肺蘇生の講習を受けている。また、全員が同じように対応できるように看護師が勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年3回行っている。隣接する小規模多機能ホームとGHとも連携し近隣の人たちの参加もある。</p>	<p>同一敷地のグループホーム、小規模多機能ホームと協力して年3回、夜間を含む火災や台風、地震発生を想定した通報、消火、避難の訓練を実施し、消防署職員による災害に関する講話や、消火器等の取扱い等の研修もされており、隣接のAコープや葬祭場の参加も得ている。他施設の災害事例をもとに対応等を意見交換するなど、迅速かつ適切な取り組みの工夫がなされている。また、不審者の侵入に備えて警察官による研修を法人全体で実施するなど、職員の災害に対する意識は高い。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、災害時の飲料水や食品の備蓄については、法人の栄養士が責任者となって全事業所に配備している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉遣いはそのつど注意している。声の大きさやトーンにも注意するように指導している。まず、本人がどうして欲しいのかを考え、言葉かけを行うようにしている。</p>	<p>利用者の人格を尊重し、居室への入室、排泄・入浴・衣服交換等のケアに際しては、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、利用者毎の支援方法を共有して実践に取り組んでいる。居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造になっており、利用者のケアに関する台帳等の取扱いもプライバシーの保護を視点に適切に対処している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員は本人が何ができるのかを見極めようと努力している。できないからさせないのではなく、できるように工夫して支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れはあるが、ひとりひとりのペースを尊重して支援できるように心がけている。	/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみは、自分でできない方は職員が支援している。美容室に行かれる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや片づけなど一緒に行っている。畑の野菜が食卓に登る事もある。職員は楽しく安全に食事できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人の栄養士に定期的に栄養バランスなどを指導してもらっている。ひとりひとりの状態に応じて食事内容や形態を変え提供している。</p>	/	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個人の能力に合わせて支援している。必要のある方は歯科往診をお願いしている。</p>	/	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェックにより状態の把握をしている。それによりトイレ誘導を行ったりオムツ交換を行っている。トイレ使用時はプライバシーにも注意している。</p>	<p>利用者の見守りや排泄チェック表により利用者毎のペースを把握し、羞恥心や不安の軽減を図る声かけや誘導に配慮しながら可能な限りトイレでの排泄を支援しており、トイレは全居室に隣接している。個々の利用者の習慣や身体機能にも配慮した対応になるよう、介護方法の工夫や排泄用品の選択等をケアプランに反映させて改善に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように気をつけている。便秘気味のかたにはオリゴ糖やヨーグルト等ではいべんがスムーズになるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎日全員行っている。ただし本人の意思や体調は考慮している。失禁があった時はそのつど行っている。	利用者の健康状態に配慮して足浴や清拭も含め、毎日の入浴を基本としている。時間帯や温度、入浴剤等についても利用者の希望に配慮し、皮膚疾患の手当も行いながら、本人のペースでゆっくりとした気分で入浴を楽しめるように支援している。入浴を渋る利用者に対しては無理強いしないで、時間、スタッフの変更や声掛けの工夫を行って、入浴への意欲を待って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活の名かで安心した時間が持てるようにしている。居室以外でも安心して休める場所を作り、睡眠時間も個々のパターンを知りそれに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は分かりやすい場所に保管してある。また、薬が変更や追加になった時は申し送りノートにて周知できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に少しでも役割を持ってもらうようにしている。コーヒーやお茶を飲んだり、将棋をさしたりされる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩は可能な限り行くようにしている。買い物も一緒に行っている。家族もお墓詣りや外食に連れて行かれる。	外出に対する利用者の意向は、日常の会話や関わりの中で把握に努めており、健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。また、家族の協力も貰いながら、地域の行事やイベントの見学、外食、一時帰宅、墓参など可能な限り外出を楽しんで頂けるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し少額のお金を持っている方もおられる。お金を預かっている方も買い物に行ったときは自分で支払うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は希望があればいつでもかけられるようにしているが、自分の携帯電話からかけているかたもいる。手紙は最近少なくなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでもいつでもくつろげるように工夫して居る。室内の装飾も季節感を取り入れ、居室は個人の好みや使いやすさに合わせている。	玄関や居間、廊下、畳部屋など共用空間は余裕ある広さで明るく、異臭や室温、湿度・換気、衛生、整理整頓等に十分配慮がなされている。随所に行事の写真や季節に活花、手作りの作品等が掲示され、テーブルセットや椅子も利用者の状態に合わせて設置されており、大きな窓からは桜島や多種の植物が植えられた園庭が眺められるなど、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。利用者は日常的に四季を感じながら好みの場所で談笑するなど居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥に座る場所を作ったり、いろいろな場面を想定して居心地の良い場所づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の時に家族とよく話をし、本人のなじみの物持ち込んでもらうようにしている。入居後でも必要なものがあれば一緒に自宅に取りに行ったりしている。</p>	<p>フローリング仕様の居室は、腰高窓や掃出し窓、大きな押入れ、戸袋があり、明るく、エアコン、ベッドが備えてある。異臭や空調、清掃等衛生面に配慮した支援に日々努めており、利用者の不安の軽減を図るため大きな文字でトイレを表示し居室入り口には各室異なる花の絵の額をかけるなど、利用者が安心安全な生活が営めるよう工夫している。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように使い慣れたテレビや寝具、整理棚、家族写真、小物等を自由に持ち込んで貰い、その人らしい和やかな雰囲気の間づくりの支援に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の場所・トイレの場所など判りにくかったり、間違いやすいような場所には大きく表示をする等の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない